

日出国の教育目標や在園生の学園での様子を発信する年3回発行の情報紙です。



学園通信 日出

学園通信「日出」Vol.49 2026年5月1日発行
<https://www.hinode.ed.jp/>
 発行：学校法人日出国園
 〒272-0824 千葉県市川市菅野3-23-1
 MAIL: web@hinode.ed.jp



日出国園公式キャラクター
日和かっぱ

2026.5
Vol.49



日出国園 幼稚園／小学校／中学校・高等学校 2025年度「まとめ」 2026年度「運営目標」

日出国園 卒業生からのメッセージ

聖地で学んだ絆と恩師への感謝を胸に
甲子園という舞台に立つて



専修大学松戸高等学校
野球部 主将
高貝 規仁
Takagai Norihito

応援していただいた方々に感謝いたします

春の甲子園大会終了2日後、第2の我が家である日出国園にお礼訪問。青木学園長をはじめ、多くの先生方から、夏の大会に向けての激励をいただきました。やっぱり日出国園が大好きです。

主将としてチームを率い、憧れの甲子園の土を踏んだあの日。アルプススタンドからの地鳴りのような応援、鮮やかな芝生の緑、そして独特の緊張感、今も鮮明に脳裏に焼き付いています。

試合を通じて最も強く感じたのは、「自分1人の力では、この打席にすら立てない」という感謝の念でした。極限のプレッシャーの中で仲間と声を掛け合い、1球に魂を込める時間は、これまでの野球人生で最も濃密で、最高に幸せな瞬間でした。

私がここまで歩んでこられたのは、日出国園

小学校・中学校時代の先生方からさまざまなことを教えていただいたからです。当時は何気なく言っていた「むつまじく」「和衷協同して苦楽を共にすること」という教訓は、高校野球という厳しい環境でこそ真価を発揮しました。

苦しい時こそ周りを思いやる言葉をかけ 共に前に進むこと

主将として困難に直面した時も、自分を見失わずにリーダーシップをとれたのだと確信しています。野球の技術以上に、人間としての土台を築いてくださった先生方には感謝しかありません。甲子園での経験は、私の中にさらなる情熱を灯しました。今後も野球を継続し、より高いレベルでのプレーを目指します。

私の目標は、ただ勝つことだけではありません

ん。野球を通じて培った「白球を追う情熱」はそのままだに、次はより広い世界で自分を試したいです。まずは夏の大会も甲子園出場を目指します。

最後に、自分のやりたいことに向かって突き進んでいる在校生の皆さんへ。努力がすぐに結果に結びつかない時や、周囲の声に不安を感じる時もあるかもしれません。しかし、「一生懸命」という熱量は、必ず誰かの心を動かします。自分の可能性に蓋をせず、今この瞬間を全力で楽しんでください。皆さんの情熱が、素晴らしい未来を切り拓くことを心から応援しています。

プロフィール●2020年度日出国園小学校卒、2023年度日出国園中学校卒、現在は専修大学松戸高等学校に在籍。野球部主将として2026年春の第98回選抜高等学校野球大会に出場。準決勝で優勝校の大阪桐蔭高校に敗れるも、見事な快進撃を見た

巻頭言

2026年度 学園運営方針



学校法人日出国園 学園長

青木 貞雄

昨年度を以って第4次中期運営方針に基づく運営は終わりましたが、主要目標の①生徒の社会規範遵守、②募集定員・在籍定員確保、③生徒の学力向上、および高校生の国公立を含む難関・名門大学進学実績4

割以上、⑤学園移転時借入金返済、および教育環境整備投資を含めた学園財政改善は、幼稚園新入園児の低迷等で100%達成とは言えませんが、学園知名度向上を含め、成果を上げることが出来ました。

本年度より、学園生活、教育・指導環境、進学実績を含む児童・生徒の学力水準等を、従来より一段階引上げる第5次中期運営方針に基づく学園運営が始まります。テーマは、「生徒が入学したい、そして、入学して良かったと思う日出国園創設」とし、児童・生徒にとって入学第1志望校となる特徴、および魅力のある学園創設を目指します。

具体的には、建学の精神「旺盛なる心身の発達力涵養、および精確にして強き実践力」に基づく教育の追求、並びに校訓の精神実践力習得を基本とし、

1)喫緊の課題である幼稚園新入園児回復

に向けた未就園児親子保育の充実を通じた参加者、および幼稚園入園率拡大。また、「小1の壁」に対応する幼小連携プログラム拡充、および本学園が目指す園児の卒園時の姿を可視化するGraduation Policy策定を通じた保護者の保育成果に対する理解度深化。

2)小学校は、Graduation Policy策定と共に、入学第1志望校応募者拡大に向けた特徴、および魅力ある教育・指導の追求、並びに名門中学校進学率向上取組み強化と児童の進路に合わせた教育環境整備検討。

3)中学校は読書の時間導入、高等学校は放課後自学習センターへの全員参加等による基礎学力向上、および中学校への特進・中高一貫クラス、高等学校に専門コース等、特徴ある教育制度導入の検討。また、生徒の能力向上・開発、並び

に学校選好度向上に資する文武両道追求、および特別指定部活動の選定。

なお、高校生の進学目標を、最終年度で旧帝大7国立大学及び早慶上理クラス10%、その他国公立を含むGMARCH以上の難関・名門大学40%とし、今年度目標は12名以上と35%以上。

4)本学園の特徴を生かした一貫教育課程の1つとして、高校卒業までに英検レベル準1級取得を目標とし、小学校で3級、中学校で2級取得を目指す。

教職員一同が、新たな目標具現化に向け、児童・生徒の学業は元より、文武両道にわたる能力向上に資する教育環境整備に努めてまいりますので、園児・児童・生徒の皆さんには、本年度も、楽しく、かつ、充実した学園生活をおくっていただくようお願いいたします。

2025年度 まとめ

幼稚園

「友だちと一緒に多様な体験を重ね、思考力・主体性を伸ばす」年間目標に向けて日々の保育を実践

保護者の皆様におかれましては、日頃より日出学園幼稚園の教育にご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

2025年度の1年間を無事終えることができました。心より御礼申し上げます。

2025年度は、「友だちと一緒に多様な体験を重ね、思考力・主体性を伸ばす」という年間目標に向けて、日々の保育を行ってきました。皆様も感じていらっしゃると思いますが、現在の子どもは便利な生活の中で運動不足になったり、工夫して頭を使う機会が少なくなったりしています。大人に何でもやってもらえる状況が多く、受け身になりがちです。

本園では、高校までの一貫教育を通し

て能動的に学んでいける姿勢を育てたいと願い、主体的な遊びを促しつつ、遊びの中で「自分で考える・判断する・選ぶ」という機会を大切にしています。

また、2024年度から年中クラスで開始したワークタイムでは、先生の話をしっかり聞ける姿勢を育てながら、自分と向き合う時間をゆったり取るようにしています。9月から年少クラスのカリキュラムに入れた運動遊びでは、約束事を守って動くこと、正しい動きを身につけて安全に活動することなどの経験を積み重ねていっています。

最初は先生の言うことが心に残らずに気ままに行動していた年少児も、年度の終わりごろにはみんなで運動する楽しさ

から集団行動を取れる場面が出てきました。

子どもの思考力は、忙しい生活の中ではなかなか育ちません。1年を過ごす中で、園児の生活全般がゆったりしていることが幼児期の子どもにはとても大切であることが感じられます。本園が大切にしている自由に遊べる時間は、子どもの思考力を育てるためには特に重要だと思いました。

本園では、自由な遊びを中心とした保育だけでなく、小学校へ向けた準備教育や、長時間保育に対応した課外活動も用意しています。両親ともに就労している保護者の増加は著しく、一日中幼稚園の同じ環境で過ごす子どもへの影響も考



え、活動を選んでいきます。

また、小学校や中学校・高等学校の児童・生徒とのかかわりが多いことも本園の特徴です。

引き続き、来年度も園児の安心安全を第一に、幼稚園で子どもらしい豊かな体験をしていけるよう取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

(日出学園幼稚園 園長 鍛冶礼子)

小学校

「自分のよさを知り、未来にたくましく進める子」の育成を目標にした教育を実践 児童が主体的に考え、伝え合う授業づくりに取り組んだ1年

2025年度は、天候不順や厳しい暑さの影響により、運動会や水泳大会など学校行事の予定を変更する場面が例年より多くありました。そのような中でも、保護者の皆様には急な変更へのご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。今後も気候の変化に応じた対応が求められま

すが、児童の安全を第一に教育活動を進めてまいりますので、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

本年度も本校では校訓「なおく・あかるく・むつまじく」のもと、「自分のよさを知り、未来にたくましく進める子」の育成を目標に教育活動を行いました。



学習指導研究主題「自分の考えを表現し、学びを深める」に基づき、児童が主体的に考え、伝え合う授業づくりを進めてまいりました。特に今年度は「Select Learning」を実施し、児童が問いを立て、自ら学びを選択しながら学習を深める姿が見られました。

また、英会話では習熟度別授業を行い、放課後自習室や各種検定への挑戦、ICT教材の活用を通して、基礎学力の定着と主体的に学ぶ姿勢の育成に努めました。

年度末には、東京歯科大学市川総合病院小児科の福島裕之先生をお招きし、6年生を対象に「いのちの授業」を実施しました。「命とは、生きるとはどういうことか」、子どもたちとともに考える時間となりました。

私たちは親から命を授かり、その命はさらに長い命のつながりの中で受け継がれてきたものです。そして「私」という存在は、自分自身だけでなく、多くの人との出会いや環境との関わりの中で形づくられています。命は多くの出来事が重なり合って生まれた奇跡であり、生きていることそのものがかけがえのない価値であるということ、子どもたちは真剣に受け止めていました。

子どもたち一人ひとりの命と可能性はかけがえのないものです。その大切な存在をお預かりしている責任を胸に、今後も校訓の精神のもと、教職員一同力を合わせて児童の健やかな成長を支えてまいります。

(日出学園小学校 教頭 北村 小百合)

中学校

高等学校

ICT教育の充実に環境整備を含め一層の力を注いだ2025年度 2年連続で難関国立10大学への現役合格者を輩出

保護者の皆様には、平素より本学園の教育活動にご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

本校では全生徒がChromebookを所持し、ICT教育の充実に力を注いでいます。本年度の中学1・2年生対象のICT行事では、新たに「生成AIを用いた開発」に挑戦しました。最先端技術を自ら活用する経験は、生徒の創造性を刺激する貴重な機会となりました。また、武善教諭による「情報」の授業は、2025年度も文部科学省等から多くの視察を受け、外部からも高い評価を得ています。

さらに、2024年度に採択された文部科学省の「DXハイスクール(高等学校DX加速化推進事業)」助成金を活用し、メディア



ルームの環境整備を進めました。その一環として、卒業生で慶應義塾大学首席研究員の尾崎正和氏を招き、全教員対象の生成AI活用研修も実施しました。こうした豊かな環境の中、生徒たちは「中高生情報学研究コンテスト」や「こども3DCGコンテスト」での受賞、大学セミナーでの発表など、多方面で成果を上げています。

大学受験におきましても、昨年度の躍進

に続き、本年度も大きな成果を上げることができました。上位大の結果に目を向けると、2年連続で難関国立10大学への現役合格者を輩出しています。これは、本学園の強みである「家族的校風で生徒と教員の距離が近い」環境を活かし、一人ひとりが志望校へのこだわりを捨てずに挑戦し続けた結果です。合格実績の詳細は、掲載の「主要大学合格状況」をご覧ください。

今後も生徒が自らの夢に向かってあきらめずに挑戦し続けられるよう、教職員一丸となって全力で支援してまいります。保護者の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(日出学園中学校・高等学校 教頭 佐久間 究)

2025年度 主要大学合格実績

大学名	現	卒
大阪大学	1	
千葉大学	6	
筑波大学	1	
国立		
東京外国語大学	1	
東京藝術大学	1	
長崎大学	1	
一橋大学	1	
計12		
早稲田大学	13	
慶應義塾大学	2	
上智大学	9	
東京理科大学	5	
計29		
学習院大学	7	
明治大学	18	
青山学院大学	14	
立教大学	17	
中央大学	11	
法政大学	13	
計80		
園		
同志社大学	1	
日本女子大学	6	
計7		
医系		
埼玉医科大学		1
計1		

2026年度 運営目標

幼稚園 運営目標

「先生や友だちと過ごす生活を楽しみ
自分なりに経験や学びを深める」

暖かい春がやってきました。園庭には蝶々が舞い、年中児が球根から植えたチューリップは色とりどりに咲きました。この春に入園の年少・年中児のみなさん、保護者の皆さま、ご入園おめでとうございます。真新しい帽子やエプロンに身を包んだピカピカの新入園児をお迎えして、教職員一同うれしい気持ちでいっぱいです。しばらくは何かと分からないことがあると思いますが、小さなことでもどうぞ遠慮なくお尋ねください。

さて、本園は「なおく、あかるく、むつまじく」の校訓のもと、自由な遊びを大切にしながら、自主性や主体性を育

て、幼稚園を修了する際には能動的に学べる子どもになってほしいと願い、日々保育を実践しております。小学校とは創立以来近い関係にあり、幼小連携カリキュラムは内容や適時性・指導法などを見直しながら今の子どもに必要な教育内容を実践しています。

2026年度は、「先生や友だちと過ごす生活を楽しみ、自分なりに経験や学びを深める」という年間目標に向かって保育を進めてまいります。新入園児のみなさんは、まずこの1年で幼稚園生活に慣れること、また、先生や友だちがいる環境で楽しく過ごせるようになることを大切にしてください。親子一緒に毎日通っ



ていただくことで、基本の体作りもしていきます。毎日が「初めて」の新入園児のみなさんには無理は禁物ですが、1年の間に子どもなりに頑張ることを覚えていくことも重要だと思っています。

また在園児は、今までの経験を活かし、いろいろな場面で友だちと協力することや思いやる経験を積み重ねてほ

日出国園幼稚園
園長

鍛冶 礼子



しいと思っています。楽しい生活は学びの前提です。幼児教育では、同じことを繰り返すことが学びを生み出します。楽しい生活を日々繰り返すことからスモールステップで気付きを得たり、学んだりすることができます。本園では、子どもらしい規則正しい生活を大切に繰り返していきます。

幼児期は家庭教育の役割も大きいです。ご家庭と幼稚園とが車の両輪として互いに協力し合ってお子様の成長を支えていきたいと願っております。1年間どうぞよろしく願いたします。

小学校 運営目標

「自分の考えを表現し、学びを深める」
～効果的な学習活動を目指して～

新入生保護者の皆様、お子様のご入学おめでとうございます。期待と希望に溢れたかわいい1年生を教職員一同、心より歓迎いたします。

小学校では、今年度より週5日制を開始いたしました。土曜日の活用の仕

方を検討し、メリハリの利いた学校運営をいたします。週末のご家族での余暇として、スポーツ、お稽古事などいろいろな取り組みに活用してほしいと思います。

併せて、授業時数の調整のため短縮授業を3時間から4時間に、昼食後下校、加えて、冬休みを1日短縮いたします。ただし、運動会などの学校行事、各学期の授業参観は土曜日に実施します。

学習面では、3年生から設定していた言語表現の授業を1年生からスタートし、全学年で授業を展開いたします。

国語は、教科書を主体とする授業、言語表現の授業、読書の授業の3本柱で進めていきます。英語では、3年生

より英検を全員受検とし、目標級合格を目指します。

本校では3年生からChromebookを全員がICT機器端末として活用しています。重さについて学校評価アンケートでもご意見をいただいております。対応策としてランドセルより軽量なリュックタイプのバックを追加指定いたします。

ランドセルを廃止するわけではなく、Chromebookを持ち運ぶ3年生以上の児童が必要に応じて、使用することを許可することにいたしました。購入準備が整い次第ご案内いたします。

今年度も信頼できる学校となるよう教職員一同取り組んでまいりますのでご理解とご協力をお願いいたします。

日出国園小学校
校長

荻原 巖

バックパック型通学カバンの
導入(選択制)について

2026年度より、小学校ではランドセルに加え、バックパック型通学カバンを導入し、ご家庭で選択いただけるようにいたします。

近年、タブレット端末の導入などに伴い、荷物の重量化が進んでおります。児童の健康と安全を最優先に考え、成長段階にある身体への負担を軽減し、より快適な通学環境を整えるべく、選択制の導入を決定いたしました。

中学校
高等学校 運営目標「生徒が入学したい、入学して良かったと思える
学校づくりの推進」

保護者の皆様、お子様のご入学、おめでとうございます。お子様が安心して充実した学校生活を送れるよう、そして入学して良かったと思えるよう教職員一同、誠心誠意支援していく所存です。

さて、中高では家庭的は校風の下、生徒一人ひとり個性を尊重する伝統を継承しつつ、お子様の進路希望実現を最優先課題とし、進路指導の充実・授業改善・環境整備等に努めて参ります。そのためには、なるべく早い段階で具体的な進路目標を定めるとともにその目標実現に向かって着実に努力を積み重ねていくことが重要です。目標があれば頑張ろうとする気力も湧いてきます

し、取り組みが早ければ早いほど目標達成の可能性も高くなります。そして「継続は力なり」で努力を続けていけば着実に実力はついていき、目標も近づいてきます。是非、早めに将来の進路について親子で話し合う機会を設けてください。

本校では放課後学習支援センターを設置しており、昨年度までは高校生については希望制となっておりましたが、本年度からは中高の全生徒が利用できるようにしました。是非、有効活用し、自ら勉強する習慣を早く身につけ、進路希望実現につなげてください。

また、本校では生徒全員に1人1台ノー



トPCを所持してもらい、情報活用能力の育成を図るとともに、そのPCを活用したオンライン英会話を2年・3年・4年・5年で実施しています。英語検定についても中学生は2級、高校生は準1級が取得できるよう指導に努めて参ります。

コロナ禍により中断していたオーストラリア姉妹校への生徒派遣は、今年

日出国園中学校・高等学校
校長

堀越 克茂



度から再開できるようになりました。YFUやロータリークラブを通じた留学生の受け入れや留学機会推進の取り組みも積極的に行っていく予定で異文化理解にも努めて参ります。

例年ですと、1年生は入学後2泊3日で本学園の軽井沢山荘にてオリエンテーション合宿を行って参りましたが、今年度は諸般の事情により、残念ながら4年生と同じく校内でオリエンテーションを開催します。

何卒、本学の教育方針にご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

《特集》一貫校「日出学園」の特徴を活かした教員の連携



幼稚園、小学校、中学校、高等学校を擁する日出学園では、これまでも一貫校としての学校間連携を行ってきましたが、昨年度よりこの連携をさらに強化するために、教員間連携を促進させています。幼稚園から小学校、小学校から中学校へと内部進学する園児・児童を学校生活面や学習面でサポートする取り組みを進めています。今回は、小学校・中学校教員の学習面に関する取り組みをご紹介します。

国語科 中高での国語力をさらに伸ばすために、小学校での語彙力、漢字力の強化を再確認

小 学校国語科では、2023年より児童たちが自分の考えを豊かに表現する力が身につくよう、語彙力と推敲力の向上に重点を置き、指導を重ねてきました。多くの言葉を知ることによって文章表現に変化が見られる一方、自分の考えを持つ基となる長文理解や話の意図を捉える点に課題も見られました。

この課題解決の手立てを探る中、昨年より、小中高国語科で日出学園中学校入試の解答分析と過去の内部生の国語力について共有する機会を設けています。ここでは、日出学園小学校卒業生には中1から高3にかけて大きく伸びる生徒が多く、さらに伸びる生徒を増やすためにも小学校では特に理解の基礎となる語彙をより増やし、漢字力を高めてほしいという中高の考えを知り、今必要な力を認識することができました。

小中連携を通じて、各校の役

割とより効果的な学習指導の検討を進めていくことが教員間の共通認識となり、2026年2月には中高国語科による中学内部進学生向けの先取り授業が行われ、児童たちにも言葉の力をつける重要性を伝えてもらえました。児童たちは、言葉の力をつける先にどのように繋がっていくのかが分かり、中学への期待がより高まったようです。

今後も国語科では中高と小学校が協体制度をより強化し、確かな国語力をつけるために学びをつなげる連携を図っていきます。(小学校 国語科 萩原重良)



算数科×数学科 小中高の学びの繋がりが進路選択を支える機会に

小 中高の教員による情報交換会において、小学校算数の習熟度が将来の数学力に直結している現状が改めて共有されました。小学校の基礎計算で苦戦する生徒は中学校の文字式計算でも同様に躓く傾向が強く、小学校で培う基礎基本の力が高校入試や大学入試の可否を分ける重要な要因の一つとなります。

算数・数学は分野や理論の「繋がりが極めて重要です。例えば、小学4年生の割り算で適切に商が立てられなければ、5年生の小数の割り算でも必ず躓きます。さらに中学1年生の正負の計算が不十分であれば、その後の文字式や方程式も解けないといった「負の連鎖」を招くことになります。

基礎基本の力を身につけるため、次の

「当たり前の徹底」を小中高で目線を合わせて指導します。まず、九九や分数の通分など各学年の必須事項を即答レベルまで高める「知識・技能の昇華」を図ります。

次に、マス目を用いた桁の整理やイコールを揃えて書く等「整理して書くことの習慣化」を徹底しケアレスミス

を構造的に防ぎます。また、成績が振るわない生徒への補習を継続しつつ、早期から「わからない」と素直に言える環境を整え、自主補習の場を提供することで、自律して学習できる姿勢を養います。

12年間の学びの繋がりを具体的に示して学習動機を高めることは、学力向上のみならず、将来の前向きな進路選択を支える重要な機会となります。

(中学校・高等学校 数学科 岩佐祐佳)



英語科 CEFR・英検による、小学校から中高まで一貫した英語力の育成・観測

本 学園では、CEFR(セファール：ヨーロッパ言語共通参照枠)を用いることで、学校間の英語力育成における目線合わせを行います。

CEFRは、語学の熟達度を6段階で示す国際基準です。言語の知識量に加え、「その言語を使って具体的に何が出来るか」という行動指向アプローチに基づいています。本学園が「CEFRを用いる」ことは「英語教育および児童・生徒の学習成果を、国際基準で測定する」ことを意味します。

一方、昨今の大学入試では英語資格試

験の成績を活用できる大学・入試方法が増えてきました。例えば、英語資格試験において一定以上の資格を取得することで、大学入試の「英語」の試験成績が満点扱い、あるいは加点对応になります。

特に「実用英語技能検定」(英検)は最も多くの大学入試で採用されている英語資格試験です。本学園では、すでに小学校で英検5級、学校行事「英語資格試験」を有する中高では今年度より英検5級から2級を全員が受験することになります。また、今後英検6級・7級が新設されますので、小学校低学年からの英検受験も検討します。

なお、英検の成績表示もCEFRに対応しています。お子様が進学や国際基準を見据えて、日々の英語学習に臨めるよう、ご家庭と学校が協力して声かけ・指導できればと思います。

(中学校・高等学校 英語科 渥美友裕)



読書×探究 小学校では読む楽しさを体験し 中高では考えを深め伝える力を養う

読 書科・探究科構想は、2025年の夏頃より、小学校国語科・中高探究科・メディアセンターの3つの視点で動き出しました。2022年頃より、メディアセンター2階・3階を活用した小学生の中高図書館開放日の設定、図書相互利用、運営の連携などの取り組みを実施してきましたが、「より長期的な視点で、小学校から中高卒業までの12年間で、図書館を軸に、児童生徒の読書活動・学習活動に根差した教育ができないか」と考えたところからスタートしました。

一時的な交流イベントや授業内の相互交流に留まらず、小学校6年間と、中高含めた12年間で、小中高の教員が同じビジョンを持って、それぞれの授業の情報交換を行いながら、1つのカリキュラムの柱を立てました。その中で、それぞれが大事にしたいビジョンは以下です。

・小学校ではたくさん本に触れ、読む楽しさを体験し、想像する力を育てること



- ・中高では興味・関心に向き合う時間を持ち、自分の考えを深め、伝える力を育てること
- ・そのために、メディアセンターは、その好奇心を育てるサポートと環境づくりをすること

この構想を実現するために、これまで教員間では何度も話し合いを行ってきました。2026年度は授業を通して日出独自のより良い読書・探究カリキュラムを構築するため、引き続き教員間の連携を行ってまいります。(中学校・高等学校 読書科・探究科 成松万里奈)

Select Learning 授業

小学校

4年・5年・6年生が自ら受けたい授業を選択
Select Learning 授業 開講

4年生から6年生までの児童が、それぞれ自分の興味ある授業、面白そうと思う授業を自ら選び、年代の違う児童と一緒に受講する「Select Learning(以下SL)授業」(選択制授業)が、2月7日(土)に行われました。選択制授業というと、高校や大学では一般的ですが、小学校で、しかも3学年の児童がともに学ぶ今回のSL授業は、日出学園小学校では初の試みです。

今回、この授業を企画したのは、小学校教員で構成される部会の1つである「研究部」(主任:石川美穂先生 メンバー:坪田由希子先生/萩原良重先生/橋本雄平先生)が、夏休み前から約半年がかりで作り上げ、各教科の先生と協議を重ね、実施までこぎ着けた特別授業です。

「本校では、これからの社会を生き抜く力として、『自主・自立の力を育成しよう』と考え、そのために各教科で効果的な授業を作ることを目的に研究活動を行ってきました。そして今回、それぞれの教科の良さを活かしつつ、さらに日常で学んでいる授業の知識や技法を使いながら課題解決ができる授業を作れないかと考え、今回初めて、選択制という形でSL授業を考案しました」(石川先生)

このSL授業は8教科11の授業で構成され(右表参照)、児童は11の授業の中から2つの授業を選択、1時間目、2時間目を使って各授業を受講するもの。各授業内容は、共通の研究授業テーマとして「見えない違い」というテーマを設定。その共通テーマに沿って、各教科の特性を活かした授業づくりが進め



グループワークでは6年生がファシリテーターに(社会2大隈先生)



英語を駆使してデザート作り挑戦(英語 見目・藤本・アリソン先生)

2月7日(土) Select Learning 授業 時間割・授業テーマ		
授業教科	授業テーマ	担当教諭
国語	今日からできる『本当の自分』の見つけ方	萩原良重/坪田由希子/橋本和弘
算数①	どんな形ができるかな?	小山幸洋
算数②	積み木の数は何個?	橋本雄平
社会①	救え!ひので村!	三橋元
社会②	「便利」と「さようなら」? ~セルフレジから考える、私達の社会~	大熊一也
理科	「毒にも薬にもなる」ものあり方を考えよう	石川美穂
図工①	カードでひらく鑑賞の世界	伊藤由佳
図工②	テンペラってなに?卵で絵を描こう!	戸田美穂
英語	Bon Appetit! Let's try the world's desserts. ~世界の料理について知ろう~	見目まどか/藤本英理/寺尾アリソン
音楽	音楽ってなんだろう?	織間将
体育	みんなで作る表現ダンス(創作ダンス)	西谷俊紀

れました。

研究部のメンバーの1人、萩原先生は「共通テーマの『見えない違い』ということ捉えて授業を作ってみようとした時、一体どこを起点にして授業を組み立てれば良いのか、授業者である我々教員にとっても難題で、それを児童たちに理解してもらって授業を選ばせるというも至難の業でした」と語ります。

このSL授業を開講するまでは、教科部会の枠を飛び越えて、他教科の授業内容を互いに検討し合う試みも活発に行われました。

「実施までの内容検討も学校全体で2回行いました。この規模感で授業を1から作ることはこれまでなかったですね」(橋本先生)

今回は3学年が縦割りで1つの授業に参加するために、学力ベースの異なる児童でも共に学べる仕組みとして、グループワークの機会を設け、実際の授業では6年生がリードしながら5年生、4年生の発言の機会を作るなどの場が生まれていました。

教員が考案した授業を児童自身が選び、参加して、先生からの質問に答えるだけでなく、児童たちがグループで対話しながら意見を出し合い、児童たち自身で学びを深めていく。

そんなシーンが随所に見られた、今回のSL授業でした。

Select Learning 授業の動画は、QRコードをスマホで読み取ってご覧ください▶



人・ひと・ヒト

小学校

萩原緋琉さんが3年連続で
全国 Jr. オリンピック(水泳)に出場

3月14日の卒業式を終えた6年生の萩原緋琉さん(下・円写真)が、小学生として最後の大会となる「第48回全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会」に出場しました(3月27日~3月30日/東京アクアティクスセンター)。

萩原さんの全国 Jr. オリンピック水泳競技大会への出場は、小学校4年生から6年生まで3年連続。小学校最後の今年度は平泳ぎで50m、100m、4x50mメドレーリレーに出場。平泳ぎ50mでは、予選で初めての30秒台となる30秒89の自己ベストを記録して3位で決勝に進み、決勝でも同じく30秒89のタイムで、全国5位に入りました。

これまで萩原さんを支えてきたお母様によれば、「6年生の時は受験勉強との両立が大変で、水泳の練習に新宿や代々木のプールに週1~2回通い、学校や塾の勉強は行き帰りの電車の中で済ませ、夜10時に車で最寄り駅まで迎えに行くという日々でした」とのことです。

日出学園小学校を卒業し、この春から理系の中・高一貫校に進学する萩原さん。「将来は医師になるのが目標なので、これからも勉強に励んでいきたいです。一方、水泳は200m平泳ぎに戦いの場を移し、東京都の強化選手の合宿に参加することを目指します」とのこと。そこで強豪選手と切磋琢磨しながら、オリンピック出場を叶えたいと抱負を語っていました。



平泳ぎ50m決勝では1位になった同じクラブメイトと0.36秒の僅差で5位

▲萩原さんの大会動画は所属クラブのYoutubeチャンネルをご覧ください▶

中学校

高等学校

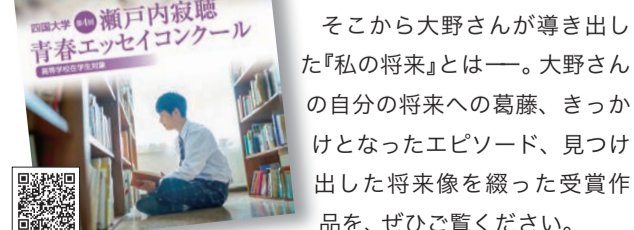
大野莉子さんが「瀬戸内寂聴青春
エッセイコンクール」で奨励賞受賞

大野莉子さん(5年1組・円写真)が昨年夏応募した「第4回瀬戸内寂聴青春エッセイコンクール」(主催:四国大学)の作品が奨励賞を受賞しました。この作文コンテストは、四国・徳島が輩出した作家、故瀬戸内寂聴の文学的功績を後世に伝えるため四国大学が創設したもので、受賞者のうち四国大学分野別入試(芸術・メディア・ダンス分野)の本入試を受験して合格した者には、毎年40万円の特別奨学金が4年間給付されるというものです。

昨年夏、大野さんは所属するディベート活動の軽井沢山荘での合宿に参加。そこで、さまざまな作文コンテストに作品を応募するという課題が出され、大野さんは「私はエッセイ作品を書きたかったので、今回初めて、四国大学のエッセイコンクールに応募しました」と、応募までの経緯を語ります。

大野さんの応募作品のタイトルは『それが私の将来』。中学校時代、周りの友だちが自分の将来について、「私は教師になりたい、看護師になりたい!」と、明確に夢を語ることに、大野さんは「まだ何も目標がない、やりたいことが定まらない自分に焦りを感じていました」。それが、高校に入って友人の相談に乗ったり、夏休みのカナダでの短期留学中に、日本の留

生の悩みを聞くうちに、「誰かの不安や悩みに寄り添い、心を回復させる手伝いができる仕事」に興味を持つようになったといいます。そこから大野さんが導き出した『私の将来』とは――。大野さんの自分の将来への葛藤、きっかけとなったエピソード、見つけた将来像を綴った受賞作品を、ぜひご覧ください。



▲大野さんの受賞エッセイはQRコードをスマホで読み込んでご覧ください▶

中学校

高等学校

「中高生情報学研究コンテスト」で
片山友貴さんが奨励賞受賞

「第8回中高生情報学研究コンテスト」(主催:一般社団法人情報処理学会)で、5年5組(当時)の片山友貴さんの応募研究作品『待機時間短縮の為に学園祭予約システム構築』がブロック大会を通過した44作品の1つに選ばれ、全国大会では奨励賞を受賞しました。

「今回の研究は、昨年の日出祭でクラスメイトの1人が提案した『飲食ブースなどの混雑状況を来場者に伝えられる、インフォメーションセンターみたいなものを作ったら?』というアイデアにヒントを得て、まずは自分たちのクラスの肉まんブースで、来場者が混雑を避けて待たずに商品を受け取れるシステムを、夏休みに制作しました」(片山さん)

出来上がったシステムは実際に日出祭で稼働し、来場者は自分の注文した商品の受け取りを廊下に設置されたモニターで確認して受け取ったり、LINE登録した人は自分のスマホで商品受け取りの呼び出しメッセージを受けたりするなど、800人近くがこの予約システムを利用したそうです。

片山さんの今回のシステム構築までの流れを、研究成果としてまとめてコンテストへの応募を勧めた情報科教諭の武善紀之先生は、今回の奨励賞受賞について「全国から集まったハイレベルな研究活動の中で、片山さんの作品は高校生らしい身近な課題の発見と自力解決の実践例であり、構想→実運用→評価(アンケート)→検証といった一連のサイクルの完結性が高く評価されたといえるでしょう」と述べています。

父親と同じようなゲームプログラマーを目指したいという片山さん。今回の全国大会での受賞は、その将来像に向かったの第一歩となったのではないのでしょうか。



コンテスト応募ポスターと片山さん

片山さんの研究発表動画は情報処理学会のYoutubeチャンネルをご覧ください▶

2025年度 12年間皆勤学園長特別表彰卒業生 / 日出育英会奨学生 / 退職教職員 / 新任教職員

2025年度卒業生 学園長特別表彰 12年間皆勤賞受賞者

2026年3月1日、高等学校卒業式で、小学校から高等学校まで無遅刻・無欠席・無早退の12年間皆勤の卒業生、杉浦大斗さんと安藤咲那さんが、青木学園長より学園長特別表彰されました。ここに卒業生のお2人とご家族の受賞コメントを掲載いたします。

杉浦大斗さんが小学校への進学で日出学園に学校見学で訪れた時、新築間もない校舎を見て「ここがいい」と、第一印象で日出学園小学校への入学を決断。入学してからは毎朝早くに登校して野球やドッチボールで1日がスタート。楽しい小学校生活を送ることができました。



杉浦 大斗さん

中学校進学では外部受験も考えたそうですが、「普段から身近にいる中高生の人たちを見て、その制服を着る自分が想像できましたし、内部進学する友だちも多く、それで決めました」と大斗さん。お母様も「小学校の時から、学校が楽しくてしょうがないと言っていましたので、進学については本人に任せました」と、そのまま内部進学。結果、12年間皆勤賞へとつながりました。

小学校、中学校・高等学校に通う毎日のお弁当は、お祖母様が5時起きで、大斗さんと、3つ違いのお姉さんのお弁当を作って送り出したそうです。「お姉ちゃんも『美味しかった』と言ってくれますけれど、弟はただ毎日きれいに平らげてくれるだけ。でも、それが嬉しかったです」(お祖母様)

大斗さんは中学校ではパソコン部から男子硬式テニス部、高校では軽音楽部に所属してテクノバンドでベースギターを担当。それぞれの活動を通じて「AIと音楽の融合」ということに興味を持ち、AI分野のデジタルサイエンス系学科への進学が決まりました。まさに今が旬の学問分野。杉浦さんのこれからの活躍を期待します。
(写真左からお姉様、お母様、大斗さん、お祖母様)

12年間皆勤を成し遂げるいちばんの原動力は、「学校が楽しい」と思えること。安藤咲那さんの日出学園での12年間は、まさに「楽しい学園生活」そのものだったようです。「小学校時代はクラス替えがあっても、どんどん楽しいクラスになっていくという感じでした。中学時代は帰宅部



安藤 咲那さん

でしたが、高校から女子硬式テニス部に入り、最初は未熟でしたが、コーチが熱心に指導して下さったおかげで、高3で県大会に出場できたことが本当に嬉しかったです」(咲那さん)
お母様から見た咲那さんは「本人は辛いこともあったかもしれませんが、あまり顔にも出さず毎日元気に学校に行っていて、お弁当も平らげて帰ってくるという、そんな生活でした」と振り返ります。

中学時代の社会科の授業が大変面白かったらしく、高2では由井先生が教える地理を選択。「いちばん好きな教科でした」と語ります。そして高3では由井先生が担任となり、その先生に見送られての卒業となりました。
由井先生からはまた、「卒業後は同窓会の幹事をやってください」と懇願され、安藤さんもそれを快諾。これからも日出祭やいろいろな学校行事に、同窓会の幹事として関わっていきたくと話します。

卒業後は大学の社会学部に進む安藤さん。そして、将来の夢は「客室乗務員です。大学では語学力を磨き、いろいろな活動を通じてコミュニケーション力を身につけたいです」と、これから始まる大学生生活に、想いを馳せる咲那さんでした。

長い間お疲れ様でした

退職にあたり思うこと

まだ退職するという感じにはなかなかありません。授業中も気が付くと「単元のまとめの時に、今回はここが上手くいかなかった。来年はここに気を付けて…」
ふと我に返った時に、「あっ、来年は無いなだ」。毎回この気持ちの繰り返しです。43年が染み込んでいることを感じてしまいます。
日出学園で初年で感じたことは、宿泊学習が多いことでした。また現在とは違い、宿泊学習の日程が長いことにも驚きま

日出学園小学校 内田 敏貞



した。毎年合計10日以上時間を、児童たちとワイワイと自然の中で楽しく過ごせたことが、懐かしく思い出されます。児童たちと過ごせたキラキラした時間を大切にしていきたいと思います。
今チャレンジしてみたいことが沢山あります。でも歳をとってからは出来ることも限られてしまいます。児童たちには、後で悔いのないようにチャレンジをして、大切なもの・ことを得てほしいと思います。
最後に、長い間ありがとうございました。

第8回高等学校軽音楽コンテスト関東大会にPortulaca 出場

日出学園中学校・高等学校軽音楽部の、中学生2名、高校生3名から成る5人組バンド「Portulaca (ポチュラカ)」が審査を勝ち抜いて、「第8回高等学校軽音楽コンテスト関東大会」(3月24日:横浜市青葉公会堂)に進出。関東地区の22組のバンドと共に日頃の練習の成果を競い合いました。



「今大会で中学生がいるバンドは、日出学園のみです」(顧問: 瀧美先生)というPortulacaの本番での演奏の様子は、QRコードを読み取ってご覧ください。▶

2025年度 日出育英会奨学生

2025年度、部活動等の課外活動で優秀な成績を修めた生徒・部活動に、日出育英会より奨学金が授与されました(個人に対し5万円、部活動に対し15万円)。ここに2025年度奨学生を紹介します。(敬称略)

学年(組)	氏名	授与理由
中学校	3年1組 ちよこみんと	コーポレートアクセス・クエストカップ全国大会出場*
	3年3組 長谷川実和	第7回全日本パトントワーリングジュニア選手権大会第4位
	中学校パトントワーリング部	第53回パトントワーリング全国大会銀賞
高等学校	4年1組 金坂友樹	第48回JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会出場
	4年1組 久川晴葉	第42回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト出場
	5年3組 神原 葵	2025年IBTF世界テクニカルパトントワーリング選手権大会第2位
	5年4組 小林 伶	2025年度全国ラクロス男子ユース選抜交流戦出場
高等学校パトントワーリング部	第53回パトントワーリング全国大会銀賞	

*「コーポレートアクセス・クエストカップ」は教育と探求社のプログラム「クエストエデュケーション」に取り組む全国の中高校生がエントリーし、選考を経て選ばれたチームが、自らの探究の成果と想いを社会に発信するもので、設定されたプログラムについてその解決策を審査・表彰するものです。



(生徒左から)神原さん/高等学校パトントワーリング部/ちよこみんと4名/長谷川さん/中学校パトントワーリング部2名/久川さん/小林さん/金坂さん(手前左から)堀越中学校・高等学校校長/青木学園長/長島ひので会会長

2025年度 退職者

中学校・高等学校	小学校	幼稚園
古城千奈美 (講師) 橋本汐理 (嘱託) 内藤紀之 (指導員) 須藤 優 (指導員)	内田敏貞 (専任) 井谷美紀 (指導員)	清水みゆき (嘱託) 井上真由美 (嘱託) 今井千尋 (嘱託) 関口秀子 (嘱託)

2026年度 新任教諭 自己紹介アンケート

質問項目

- 1 教員を目指した理由は?
- 2 日出学園で楽しみにしていること
- 3 自分の得意なこと 苦手なこと
- 4 愛読書やお薦めの本/その理由

幼稚園 池田 未緒 Ikeda Mio

- 1 初めての集団の場となる幼稚園で、子どもたちの無限の可能性に寄り添い、共に成長していきたいと思ったことがきっかけです。日々の小さな変化を一番近くで見守り、喜びを分かち合える存在でありたいです。
- 2 子どもたちの「小さな変化」を間近で見守ること。
- 3 フットワークが軽い・夜更かし
- 4 『自分に嫌われない生き方』(谷口たかひさ著) 自分の考えをアップデートするために、自己啓発本を読むことが好きです。

日出学園小学校 理科 本庄 光太郎 Honjou Koutarou

- 1 人前に立つことが好きで、子どもの成長にかかわることが好きだからです。
- 2 たくさん子どもたちと出会い、共に学んでいくことです。
- 3 得意なことは、趣味の範囲が広いことです。基本なんでも挑戦します。苦手なことは、虫を触ることです。
- 4 辻村深月さんの作品を読んでいます。最近まで全く本を読んでこなかったのですが、物語をすごく想像しやすく、すてきな作品ばかりです。

中学校・高等学校 保健体育 齊藤 綾乃 Saitou Ayano

- 1 中学時代をきっかけに、生徒皆さんの成長に関わることでできる教員という仕事に魅力を感じ、目指し始めました。
- 2 保健体育を通じて皆さんと関われることはもちろん楽しみですが、日出祭などのさまざまな行事も楽しんでいます。
- 3 得意なことは中学から大学まで続けたバレーボール。体を動かすことは好きですが、暑すぎる夏は苦手です。
- 4 長谷部誠の著書『心を整える』です。気持ちを立て直したいときにお薦めの本です。

中学校・高等学校 社会科 吉岡 幸大 Yoshioka Kouta

- 1 皆さんの今後と一緒に考える「サポーター」になりたいからです。ともに学びましょう!
- 2 日出祭や体育祭などの一大イベントで、皆さんの活躍する姿を見るのがとても楽しみです。
- 3 得意なこと: 授業中にたまにグジャレをはさみます。苦手なこと: 人の名前と顔を一度で覚えることです。
- 4 『君たちはどう生きるか』(吉野源三郎著) 『自分はどんな存在なのか』について、主人公コペル君と一緒に考えてみてください!

業務部 長川 剛 Nagakawa Takeshi

- 1 前職で子どもと接する機会が多く、子どもの成長に携われるところに魅力を感じたから。
- 2 一貫校ならではの、成長していく様を長期にわたり見守れること。
- 3 どこでもすぐに寝られること。高いところが苦手。
- 4 『プロジェクト・ヘイル・メアリー』(アンディ・ウィア著) 大きな困難を人類の意思と英知で乗り越える様や、壮大な展開に驚愕しました(映画のCMでだいたいネタバレはしますが)。

編集後記

ひのでっ子の活躍に惜しめない声援を「卒業生メッセージ」に原稿を寄せていただいた専修大学松戸高等学校野球部主将の高貝規仁さん。春の選抜高等学校野球大会では、1回戦で彼のヒットから先制点が生まれ、準決勝の大阪桐蔭戦では、高貝さんのピッチャーフライで甲子園での戦いの幕を閉じました。TV観戦で、ひのでっ子の高貝さんや専大松戸に声援を送った人は多かったのではないのでしょうか。自分の目指した道に進み、活躍する全てのひのでっ子たちに、これからも私たちは惜しめない声援を送りたいと思います。
編集発行人 学校法人日出学園 学園長 青木 貞雄

学園通信「日出」 Vol.49 2026年5月号
本紙掲載記事・写真の無断転載を禁じます。

発行 2026年5月1日
編集発行人 青木 貞雄 (学校法人日出学園 学園長)
編集 学園通信「日出」編集委員会
幼稚園 池部かほり 澤居未来
小学校 藤村信也 見目まどか 齊藤奈々
中学校・高等学校 石川 茂
法人企画室 児玉尚樹 児玉孝喜 渡邊広樹